



会報

2018 ▶ 2019
WEEKLY REPORT

留萌ロータリークラブ
会長目標

親睦と奉仕、
閃きと実行

インスピレーションになろう

会長／大嶋 孝広 幹事／堀 光輝

プログラム

- 本日
来賓卓話「フルーツが身体を変える」
マルゼン佐藤果樹園 代表 佐藤 豪様
 - 次週予定
移動夜間例会
- 会員誕生日
角 隆 巨
- 結婚記念日
佐々木 繁

No. 2820
第34回 4月3日

出席報告

前例会

会員総数……………35名
出免会員……………2名
出免出席……………2名
基準会員出席……………13名
出席率……………42.88%

前々会

第31回 3月6日
欠席会員……………12名
内メイクアップ……………5名
修正出席率……………80.00%

例会／毎週水曜 12:15~13:15 留萌産業会館2F

会長報告……………

- 留萌みなとライオンズクラブより、認証55周年記念式典の案内をいただきました。

ニコニコBOX……………

- I M委員会の皆さん2ヶ月を切りました。よろしくお祈いします。 鈴木会員

幹事報告……………

- 赤平ロータリークラブより、2月会報を受領しました。
- 来週月曜日3月25日に定例理事会を開催します。理事役員の方はお忘れにならないようによろしくお願いします。
- 来週の例会は法定休会となっております。お間違えのないようにお願いします。

前 回 699,152円
今 回 2,000円
累 計 701,152円

プログラム……………

「PETS 報告会」

福士会長エレクト

3月9日会長エレクト研修セミナーに参加してきました。出席者はガバナーエレクト福田武男氏、ガバナー小山司氏、次期研修リーダーの安孫子PG、次期研修委員の嵯峨PG、武部P

第33回 3月20日(水) 天候/曇

G、羽部PG、ガバナーノミニーフ井敬吾氏(札幌手稲)。地区役員、次期地区ガバナー補佐、次期地区役員、各クラブの次期会長、ホストクラブ(恵庭ロータリークラブの役員)総勢128人。

2019-2020会長テーマ

「ロータリーは世界をつなぐ」

2019-2020年度会長

マーク・ダニエル・マローニー

(アラバマ州、ジケータークラブ所属)

税法、遺産、農業法を専門とする法律事務所の社長。

次期会長のマローニー会長のメッセージをお伝えします。

- ① ロータリーを成長させ奉仕活動やプロジェクトで地域に大きなインパクトをもたらすこと。それには会員増強が必須である。
- ② ロータリーは「つながり」が最も大切、地域を調査しクラブの職業分類をもう一度見直し、会員増強をすること。
- ③ 柔軟性・革新的な発想で、様々な人々が入会できるように、今までになかったような斬新なクラブを作ろう。
- ④ インターアクターやローターアクターとはもちろん、配偶者や家族もロータリーと補完し合うようにしてロータリーとつながろう。
- ⑤ 国連の75周年を祝い、ロータリー独自のインフラを活用し国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」の実現に向けて協力していこう。

2019-2020年度2510地区目標

テーマ「自分を見つめ、若者と語らい、

未来に向けて行動を！」

- ① みんなで手を取り合ってクラブを強化する。
 - * 既存会員の維持と、地域の職業分類を調査・活用し、更なる会員増強を推進し、クラブ会員の後継者を含めた若者たちへ向けて「衛星クラブ」の設立を奨励しロータリーを成長させる。
 - * 女性会員や40歳未満の会員の入会を特に推進し、RAC全国研修会に向けてRACの

拡大増強を図る。(福井ガバナー年度に札幌で開催される。)

- * ロータリー理解推進のため「ガバナー月信」を充実させ、ホームページをアップグレードし「世界を変える行動人キャンペーン」を促進し、広報活動を推進する。
- ② ロータリー財団への寄付を推進し、フルに活用
 - * ロータリー財団への寄付を推進するとともに、本年度に特別使用可能分も含めて地区財団活動資金を十分活用し、グローバル補助金も含めて地域社会及び海外でのプロジェクトが増加するように推進する。
 - * 世界ポリオ・デーには世界のポリオ撲滅で、WHOなどとともロータリーが果たしている役割を、広く地域に伝えるよう各クラブに奨励する。
 - * 年次基金とポロオプラスの寄付を増やしつつ、恒久基金においても2025年までに20億2500万ドルへ成長するよう支援する。
 - ③ ローターアクターなどの若者や新会員を支援する。
 - * クラブに入会して5年以内の会員を対象に「新会員交流会」を開催し、会員間の交流・親睦を深めつつ、ロータリーへの理解を深め合う。
(具体的には11月16・17日支笏湖で行うことになっています)
 - * 米山記念奨学会への寄付の推進を図るとともに、この制度が地区内の全てのクラブに理解され、又奨学生が卒後日本との架け橋になれるよう支援する。
 - * クラブに「クラブ研修リーダー」の設置を奨励するとともに、積極的にロータリーリーダーシップ研究会セミナーに参加し、RLIセミナーがこれからの「ロータリー学びの場」となるように認識を広める。(今年は6月・7月・8月に開催。ディスカッションリーダーの育てる。)

ロータリーのビジョン声明=R I 長期計画
私たちロータリアンは、世界で、地域社会で、

そして、自分自身の中で、持続可能な良い変化を生むために、人々が手を取り合って行動する世界を目指しています。

2014-2019までの5年間の中期計画

- ① クラブのサポートと強化
- ② 人道的奉仕の重点化と増加
- ③ 公共イメージの認知度の向上

2019-年度からの中期計画

- ① より大きなインパクトをもたらす。
一級の世界的かつ人道奉仕団体として参加者の基盤を広げる。

目的

- ：ポリオを撲滅し、残された資産を活用する。
- ：ロータリーのプログラム及びロータリーが提供する体験に焦点を当てる。
- ：活動成果をあげ、それを測る能力を高める。(達成能力を高め成果を示す)

- ② 参加者の基盤を広げる。
より多くの参加を促し、共に手を取り行動する意義深い方法の提供

目的

- ：会員基盤と参加者の基盤を広げ、多様化する。(会員の増強と多様化、参加の増加と多角化)
- ：ロータリーの新しい経路を創り出す。
- ：活動成果とブランドに対する認知を築く

- ③ 参加者の積極的なかわりを促す。
共に奉仕し、互い連携し満足感を味わう機会を持つために

目的

- ：クラブが会員の積極的な参加を促せるように支援する。
- ：価値を提供するために参加者中心のアプローチを開発する。
- ：個人的・職業的なつながりを築くために新たな機会を提供する。
- ：リーダーシップ育成及びスキルの機会を提供する

- ④ 適応力を高める。
ビジョンを達成し世界の時流に乗るために、我々の組織や文化は進歩しなければならない。

目的

- ：研究と革新、及び進んでリスクを負うことへの意思を奨励する文化を築く。
- ：ガバナンス、構造、プロセスを合理化する。(管理体制、構造、手順を合理化する)
- ：意思決定におけるより多様な考え方を育むために、ガバナンスを見なおす。

講演は、「ロータリーを元気にするために」

ロータリーコーディネーターPG酒井正人氏
マンネリを防止する。

- ① メークアップ
- ② 情報交換
- ③ リソースの活用
- ④ 研修の活用(教えてもらうのではなく、考える研修、上から目線で先輩が教えるのではなく、共に考える研修の実行)

会員増強の対象者

- ① 家族会員
- ② 法人会員
- ③ 元会員
- ④ 会員維持

リタイヤした場合の、会費の負担等

地区大会について

お手元に回した通りです。

今年は10月5日(土)が、本会議になっています。お間違いないようお願いいたします。

又、今年は、記念パークゴルフ大会も9月28日(土)開催されます。

西原 次年度財団委員長

先日行われたロータリー財団の報告をさせていただきます。まず初めに、ベッツに参加して下さいと言われ、恥ずかしながらベッツとは何ぞやという所から始まりました。今日の為に資料を作成してきましたが、ベッツとはプレジデント・エレクト・トレーニング・セミナーという英語の頭文字を取ったもので、読んで字のごとく会長エレクト研修セミナーと言うものだそうです。私が参加させていただいたのは、ロータリー財団と米山記念奨学会のセミナーでした。話の内容はハッキリ言ってつまらないで

第33回 3月20日(水) 天候/曇

す。基本寄付です。事は寄付の話ばかりでした。どうやって寄付を増やしていきましょうかという話で、寄付がどうやって集められ、どうやって使われているかを知らないで、寄付もしづらいという事で、これを機に理解して頂ければと思います。

まずはロータリー財団とは何ぞや?という事です。ロータリー財団の使命は、ロータリー会員が健康状態を改善し、教育への支援を高め、貧困を救済する事を通じて、世界理解、親善、平和を達成できるようにすることです。非営利組織である当財団は、ロータリー会員をはじめ、より良い世界を築こうというビジョンを共有する財団支援者の方々からの自発的な寄付のみによって支えられています。ご寄付はロータリー財団の補助金となり、助けを必要とする地域社会に持続可能な変化をもたらす活動に役立てられています。

ここでどうすれば寄付が集まるかと言うと、ただ寄付だけクレと言ってもだめですから、寄付の個人の認証をしようと言う事になりました。何をやるかと言いますと、寄付額に応じて個人を表彰しようという事です。ランクに応じて色々あります。ポールハリスフェロー、財団の友会員などがあり、どんどんランクがあがり、表彰されたり、バッチや首飾りがもらえます。これは個人の認証もありますが、クラブの認証もあります。

次に活動資金のしくみですが、年次基金への寄付がありますが、それは3年間プールされ、その利子と共に半分づつ分け、DDFとWFとして、地区財団活動資金、国際財団活動資金とに分け、地区財団活動資金はさらに半分に分けられ、地区補助金とグローバル補助金に分けられ、使われています。地区補助金は、地元や海外の地域社会のニーズに取り組むための比較的規模の小さい、短期的な活動を支援する資金で、2018~2019年度の補助金状況は69クラブ中41クラブが申請し、総額616万円が支給されています。ですから皆さんもどんどん利用してくださいという事で、複数のクラブで共同申請もOKで、認められないものは、周年事業や現金、商

品券、人件費、図書券などの寄贈、交通費、飲食などの会員への還元です。補助金の申請のスケジュールがありまして、2019~2020年度では、5月31日が締め切りで、あと少ししかありません。申請が通ると、8月31日には補助金が振り込まれますが、補助金活動報告書の提出が必須となっています。担当者はなるべく早くに動かれた方が良くと思います。

次に、ポリオに関して話されましたが、ポリオとロータリーについてのお話があり、世界でのポリオの発生率が昨年ぐっと減りまして、このまま行くとポリオを絶滅出来るぞという話が出ていましたが、2016~2017にかけては減ってはいませんが、2018~2019になると逆に増えてきており、ポリオプラスはやめられないので、寄付をもっと集めようとお話でした。今期会員全員に会員1名30ドルの寄付をお願いすると言う事になっております。その後、ロータリー米山記念奨学会、学友委員会について話されましたが、米山記念奨学会とは、日本に在住している外国人留学生に対して日本全国のロータリアンの寄付を財源として、奨学金を支給して支援する民間の奨学団体との説明があり、日本人留学生の派遣は行っていない。財団は1952年に発足。米山学友会は学友と現役奨学生による同窓会組織で、全国に33、海外に9つ設立しているそうです。このあと、セミナー講演という事で、塚原パストガバナーのお話と、以前留萌クラブにいらっしゃった、コウゲイヨウさんが講演をしました。

会場は千歳のANNのホテルでしたが、羽幌の加藤先生が次年度ガバナー補佐と言うことで来ていまして、一緒にご飯を食べようと言われ、札幌まで最高級車のレクサスで富士次年度会長と共に送っていただきました。寄付の話を聞いてきましたが、皆さんからの寄付が全てで、活動がなされますので、ぜひご協力いただければという事で勉強会に参加して参りました。これにて報告を終わります。